

## 김숨 「뿌리 이야기 (根の話)」

2015年 イ・サン文学賞 大賞受賞作品

「新潟で韓国と北朝鮮の現代小説を読む会」2015.09.27 平山美果

### ■ 김숨 (キム・スム) 作家紹介

1974年、蔚山生まれ。大田大学・社会福祉学 学士。

1997年「느림에 대하여」が大田日報・新春文芸に選ばれ、1998年に「중세의 시간」が文学トンネ・新人賞を受賞する。

小説集に「투견 (闘犬)」「침대 (寝台)」「간과 쓸개」「국수」、長編小説に「백치들 (白痴)」「철 (鉄)」「나의 아름다운 죄인들」「물」「노란 개를 버리러」「여인들과 진화하는 적들」がある。

2006年「大山(テサン)創作基金」(力のある新進作家に贈られる)より支援金を受ける。

2012年「노란개를 버리러」許筠(ホ・ギョン)文学作家賞を受賞する。

2013年「그 밤의 경숙」58回現代文学賞を受賞する。

現在は若手小説家のグループ「작업 동인 (作業同人)」で活動中である。

(参考：教保文庫 HP など)

### ■ 「뿌리 이야기 (根の話)」の審査評

ありとあらゆる木の根に生命を吹き込み、過酷な現実に劣敗した人々の生を根の再生で転換する過程が従来の作品とは違う。 —최일남 (小説家)

「根」の特性をテーマにし、執拗に追跡した力作。「根」といってもすべてが同じルーツではない。作業室の中の根とは結局、世間の根ではないだろうか。

—김윤식 (文学評論家、ソウル大学名誉教授)

機械文明によって破壊された生命力というテーマを、実験室で保存する木の根の形、モナリザの悲しい顔、乾いていくカーネーションの花びらなどのイメージをとおし、知的で感性的な言葉で小説美学の花を新たに咲かせた。

—이태동 (文学評論家)

菩提樹の根のように、すべてをかいくぐり掻き分け入りこむ「根」を見せてくれている。アンコール・ワットで見る姿に負けないくらい、現実と歴史に様々な網を張っているようだ。「さすが」と言うしかない。いつかはイサン文学賞を受賞すると思っていたが、それがまさにこの作品だった。 —윤후명 (小説家)

人間を木にたとえ、人間関係と人間の暮らしを根に比喻し、作家は自分のルーツを喪失した人たちの苦痛や他の土地への移住による心理的不安を深く描写している。 —김성곤 (文学評論家、ソウル大学名誉教授)

■それぞれの段落（①～⑨）からみる、おおまかな内容

- ① 私(36歳)は、彼と付き合ってから9年になる。芸術家の彼は5年前から「木の根のオブジェ」を制作している。
- ② アトリエを兼ねた彼の住居は、いつもオブジェ用に調達した大きな木があり、臭いが充満している。「木の根」には人のように様々な表情があると彼は話す。
- ③ 四方に伸びる根が人の手のようだと私は感じている。幼い頃、同居し一緒に寝ていた叔母は、夜になるといつも私の布団に手を伸ばしてきたからだ。彼にそのことを話したら、広く浅く根を張る「ぶどうの木」の根「みたいだと言う。彼に同行し、ぶどうの根を採取しに行く。彼が選ぶ素材はいつも開発で追いやられた「廃材の木」だ。
- ④ 遠くから運ばれ移植されたメタセコイアの木の前で、彼は「移植される木が感じる恐怖」について語る。
- ⑤ 木のオブジェ制作の工程はとても手間がかかる。複雑にからみ合う「ぶどうの木」のオブジェを見て私は、夜になるといつも私の布団に手を伸ばしてきた叔母を思い出す。
- ⑥ なぜ彼はこれほどまで「木の根」にこだわるのか？
- ⑦ ある日、私がアトリエに行くと、「アカシアの根」で部屋がベッドまで占領されていた。まるで病気の恋人に薬を塗るかのよう、根に「ろう」を塗る彼を見て、私は嫉妬を感じる。後日、私はアトリエにあった柳の根を電動ばさみでズタズタに切る。
- ⑧ 実は私は彼についてよく知らない。赤ん坊のころ彼は今の両親に養子にもらわれた。彼が子どもの頃に目にした「庭の梅の木が引き抜かれる様子」が「捨てられた自分」と重なるという。ぶどうの木オブジェは、叔母の名前「ナム・ギドク」というタイトルが付けられギャラリーに展示されていた。私は「親に捨てられた彼」が「孤独な叔母」と似ていることに気付く。
- ⑨ 叔母が死んだ日の夜（実際は養老院で亡くなったのだが）、叔母が死ぬ瞬間、布団に手を伸ばしてきたのを私は感じていた。

## ■登場する「木」と「根」の話

### ・호두나무 (クルミの木)

100年たっても根は3mしか伸びない。深根性。(段落③で彼が私のようなという)

### ・단풍나무 (カエデの木)

彼が初めてオブジェに選んだ木。根が四方に伸びないようグルグル巻かれた針金状の根は、まるでスズメバチの巣のようだ。

### ・능수머들나무 (コウライシダレヤナギ 高麗垂柳)

### ・양파 뿌리골무=根冠 (根の先端部にあり、組織の生長点を保護する役割) 私の手に似ている。

### ・복숭아나무 (モモの木)

根がつくる表情は人間のようだ。「モナリザの微笑」に隠された6つの感情。

### ・포도나무 (ブドウの木)

アカネ科 つる性多年草。浅く根を張る。(→クルミの木と対比)

### ・사철나무 (マサキ)

### · 메타세콰이아 (メタセコイア)

絶滅した種とされていたが中国で同種の木が発見され「生きている化石と呼ばれる。1500k離れた場所から移植される木が感じる恐怖について彼が語り、自分に投影させる。

### · 느티나무 (ケヤキ)   トラックを頼んで運んでもらうほど大きい

### · 굴참나무 (カシワ)   アリが大量発生しアトリエを覆い尽くした。

### · 아카시아 (アカシア)   根の形が人間のようで私の嫉妬の対象なる。

### · 매화나무 (ウメの木)   彼が幼いころ住んでいた慶州の家の庭にあった木。移植される様子がトラウマになっている。

### · 산딸나무 (ヤマボウシ)   防水効果で雨でも散らない真っ白い花がきれい。移植される梅の木の横で対照的な存在。

### · 모과나무 (カリン)   撤去村を訪れた際、木に「撤去」の文字が彼の心臓と同じ位置に打ち付けられていた。彼は木を抱きしめる。

## ■登場人物

### ○私

39歳。昔からのソウルっ子。実家は風呂屋を経営し、現在もここで暮らす。日本の旅行を扱う旅行社に8年勤務しているが、会社は倒産してしまう。

### ○彼

38歳くらい。慶州で幼いころ養子にもらわれ、その後はウルサンへ。もとは油絵が専門だったが5年前からアトリエ兼自宅で「根」のオブジェを制作する美術家。美術塾の講師をして収入を得ている。私とは付き合い合って9年になる。

### ○고모할머니 (父の叔母) =名前 ナム・ギドク

私が9歳の頃に同居し、1年ほど一緒に部屋で寝ていた叔母。もと従軍慰安婦だったが登録はしておらず、生涯孤独な存在だった。晩年は養老院で暮らす。

(読書会後の追記)

■意見交換で出た内容のまとめ

- ・ 短編小説としては長い。
- ・ 同じ言葉や描写が何度か重複して書かれている。
- ・ 最後は叔母の話で終わるが、いちばん伝えなかった話なのか気になる。
- ・ 最近の社会の話題などが上手く盛り込まれている。(都市開発、撤去村、従軍慰安婦、東日本大震災など)
- ・ 最近多い文芸創作学科出身の作家ではないが、小説の内容がよく組み立てられていて「つくり込まれた小説」という印象だ。
- ・ 韓国で文学賞をとる作品は、哲学的で綺麗にまとめられたものが多い気がする。

以上